

学力向上に効果のある取組事例

国東市立富来小学校

⑪校内研修などによる授業改善

取組の具体①

○学習を支える素地づくり

【様々な場面での「聴く」指導、人間関係づくりの促進、基本的な学習習慣・生活習慣の定着】

●様々な場面で行う「聴く」指導

→小中連携した重点共通指導事項

(目・耳・心を働かせて「聴く」こと)

●「一人も見捨てない」学級・学校経営

→心理的安定性の創出

(毎週行う子どもの様子の情報共有、週1回行う人間関係づくりプログラムの実践)

●保護者との連携

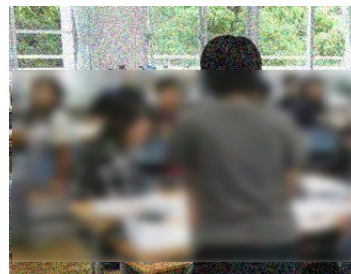
→家庭学習の徹底のために

(家庭学習の手引きの活用、家庭での声かけ、教師の見取りとやり直し指導)

→生活習慣の確立のために

(くにさき子マナーモードの活用、メディアコントロールに関する家庭での約束づくり、睡眠時間の確保)

学習を支える素地づくり ～「聴く」指導～



取組の具体②

○授業改善「自分の考えを持ち、進んで伝え合おうとする子どもの育成をめざして」

【学び合いのある校内研修】

●課題設定の場の工夫

→「自分の考え」を形成するための課題設定の時間と工夫

(未習と既習のずれ、難易度に応じた「共に考える」ペア活動、シンキングツールの活用、理解度の自己診断)

●「主体的・対話的活動」のある授業

→「考えを伝え合い、表現し合う」場の保障

(伝え合う姿の共通理解、課題追究のためのペア・グループ・全体交流の場の設定、めざす姿に近づくための手立て・工夫の実践交流)

●視点を明確にした主体的な振り返り

→振り返りの視点の実践交流と板書交流

(「わ・が・と・も」による振り返り)

●「一人も見捨てない」を重視した授業

→授業者の心得と子どもに伝えていること

(「わかった」は「説明できること」である、「わからない」は恥ずかしいことではない、一人も見捨てない＝一人にならない・させない)

授業改善

～学び合いのある校内研修～



はなしあいの名人になろう！～伝え合うための「まほうの言葉」～

